

1 学校理念

- ・学校は幸せになる方法を学ぶ所
- ・生徒は未来を変えていく存在として育む

2 教育目的

- ・大淀中学校で過ごす時間は、社会人になるための準備期間

3 校是

「自立」

4 学校教育目標

「自主・自律の態度と共生の心を育成する」

5 目指す生徒像

- 真理を探究する生徒
- 他者との絆に感謝する生徒
- T P Oを正しく判断する生徒

6 本校の生徒に身につけさせたい資質・能力

- 読解力（課題設定力・情報収集力・情報選択力・情報活用力・論理的思考）
- 表現力（情報理解力・自己理解力・創造力・対話力・他者理解力）
- 探究力（洞察力・実行力・忍耐力・協働力・批判的思考力）

7 今年度の重点目標と目標達成のための取組

重点目標1 学力向上

(1) 授業力の向上

- 協同学習を中心とした授業改善
- 「コの字型」での授業
- G I G A端末の授業活用（グループ学習、ペア学習への活用）

(2) 「基礎・基本の定着」のための取組を行う

- 定期テストを5回から3回に減らし、章末テストの新設
- 学力向上プロジェクトチームの新設

(3) 主体的に学ぶ力を育てるための取組を行う。

- 「学習の手引き」を作成し、学習目標・学習の仕方・心構え・評価方法について生徒・保護者に知らせる
- 学習確認プログラムの結果をもとにした学力実態を分析する
- 独自のキャリアパスポートの活用

(4) 実践と連動した教職員の研修を推進する

- 年に3回の公開授業週間を設定し、相互に授業を見合うことで、授業力の向上をはかる
- 授業改善について、毎月の教職員研修の実施する

重点目標2　自尊感情を育む

(1) リーダーの育成

活発な学級活動や生徒会活動、部活動等のあらゆる場面でリーダーの育成に努める。また、リーダーを中心として様々な活動に主体的に取り組むことができる体制づくりをすすめる。そのために、夏季休業中にリーダー研修会（半日）を行う。

(2) いたずら・いじめ・嫌がらせを許さない人間関係を築く

普段から生徒の揺れ動く心理を的確に把握し、きめ細かい観察を心掛けると共に、問題への迅速な対応や指導により再発を防ぐことを目指す。また、お互いに認め合い、高め合う集団づくりに努め、問題の根絶を目指す。そのために、令和5年度より年間2回の人権学習を行う。

1年	(前期)	L G B T Q	(後期)	障害者差別
2年	(前期)	いじめ	(後期)	外国人差別
3年	(前期)	いじめ	(後期)	同和問題

(3) 生徒に寄り添う支援を行う

C S time を新設することにより、全教職員で1人1人の生徒を大切にする関わりを実践する。

(4) 「世界に1つだけの花」を中心とした、生徒のいいところ探しを行う

1週間につき、各学年4名ずつのいいところ（行い）を教職員が見つけ、学校ホームページで紹介する。

5 中心的な5つの取組

（取組の裏付けとなる理論：欲求理論・行動理論・愛着理論・ソーシャルボンド理論）

- ① 協同学習：協同学習を中心とした授業を全教科で実践する
- ② S E L（社会性と情動性の学習）：S E Lの授業を、年間12回実施する
- ③ P B I S（学校環境におけるポジティブな行動介入と行動支援）：幸せの花束カード

- ④ 品格教育：毎月の行動目標を設定して地域掲示板に掲載し、全校生徒が心がける
- ⑤ ピアサポート：異学年交流の実施